

2018 年新春のご挨拶

連合大分の組合員の皆さん 明けましておめでとうございます。健やかに新春をお迎えになったことと存じます。

昨年の出来事について触れたいと思います。最初に、大分県は、「九州北部豪雨」と「台風18号」という自然の猛威によって、県下各地域に甚大な被害を受けました。しかし、大分県と自治体の連携した対応と自治体職員の昼夜を分かたぬ取り組みによって、復旧・復興に向けて歩みを進めています。

連合大分も被災地に「連合大分の旗」を立て、約1600人を超える連合大分組合員が、「助け合い・支え合い・お互い様」の姿勢をもって、被災家屋を中心にボランティア活動に入ることができました。

次に、第48回衆議院議員総選挙の取り組みですが、連合大分が推薦した「1区・吉良州司」、「2区・吉川はじめ」、「3区・横光克彦」の3人を構成組織、連合大分・地域協議会、連合大分議員懇談会などによる「連合大分総がかりの選挙闘争」によって、揃って国会に送ることができました。

この2つの取り組みは、一人ひとりの組合員にとって、誇りと自信になる成果であり、今後の連合大分の運動にとって、大きなエネルギーとして蓄積できたと捉えています。

また、県民・市民の心に響くものであったと捉えています。大分県における労働組合のナショナルセンターである連合大分の影響力も示すことができたと思います。

本当にお疲れさまでした。ありがとうございました。

さて、2018年が幕をあげましたが、私たちを取り巻く情勢と当面する課題に触れて、ご挨拶としたいと思います。

テレビの画面からは、新年を祝う映像が流され、併せて「新年を迎えこの一年間の抱負」などが語られています。そして、先日には、大分県でも約12000人の新成人が晴れやかな衣装につつまれて、成人式が行われました。

その一方で、少し視野を広げて、地球儀的に世界を俯瞰してみますと、新年早々、米朝関係では、「核のボタン」の大きさを競う発言がありました。中東のイランでは、デモ隊と警察が衝突し、多くの死者と逮捕者を出しています。ドイツでは、難民・避難民の受け入れを拒否する極右政党が大きく議席を伸ばしています。

また、テロ事件も「見ることに慣れてしまう」ほどに頻発し、昨年までに107件を超える件数を数え、3000人以上の人たちが、その犠牲となっています。アフリカ・中東を中心に起きている紛争・内戦では、子どもや女性、高齢者など武器を持たない人たちの犠牲が後を絶たない状況になっています。

イギリスのEU離脱、アメリカにおけるトランプ大統領の誕生以前は、先に述べたような「対立」や「分断」、「差別」や「格差」、そして「テロ」、このようなことに対して、それぞれの国のリーダーは、その「解消」「改善」に向けた「英知」を結集させようと努力を重ねていましたが、今は、「〇〇ファースト」と称して、逆に扇動し、国民を巻き込んでいるように思われます。

日本はどうでしょうか。政府は、「東アジアにおける安全保障関係は、最も厳しい状況にある」と主体性のなさを他人事のように喧伝しています。その最たるものが、通称で言いますが、北朝鮮による「17発の弾道ミサイルの発射」にあります。私たちが注視をしておく必要があるのは、「この不安定な情勢」をテコにして、日本の進路や日本の在り方を誘導してはならないということです。もう少し深掘した発言にすれば、このことをテコにして、憲法論議を進める方向に誘導してはならないということです。

一方、当面する取り組みとして、2018 春季生活闘争があります。連合は、2014 闘争以降、「経済の好循環実現」に向けては、デフレからの脱却を見据え、GDPの6割を占める個人消費を回復させなければならない。そのためには、賃金の「底上げ・底支え」「格差是正」に重点を置き、すべての働く者の処遇改善が不可欠という認識のもとで、「月例賃金の引き上げ」にこだわり、取り組みを進めてきました。その結果、足下、物価上昇がほとんどない中、4年連続で月例賃金改善の流れが継続でき、「賃金は上がるもの」という常識を取り戻しつつあると捉えています。

大分県におきましても、連合大分集計（300人未満の規模）による中・小の賃上げ率は、2014（1.58%）、2015（1.75%）、2016（2.01%）、2017（2.03%）と上昇しています。このことから、大分県内においても今後の労働力不足の課題を踏まえた、中小の経営者の「人的投資による人材確保と育成」の方向へと進んでいる状況が見て取れることから、2018闘争の具体的な賃上げ要求水準は、本部方針を踏まえて、「2%を基準とし、定期昇給分を含めて4%」としています。

加えて、運動の両輪としての政策制度では、働き方改革、とりわけ、大分県の年間総労働時間は、全国平均を上回っていることから「長時間労働の是正」が緊急の取り組みと考えています。

昨年8月17日に採択された「おおいた働き方改革」共同宣言が、県内すべての事業所に行き届き、労使の協議によって、働く者の「からだと心の疲れ」をとる、「魂の入れ込まれた具体的な取り組み」として実行されるよう、連合大分として取り組みを進めていき、「働きやすい大分県」「生活しやすい大分県」つくりに向けて、労働組合としての社会的責任を果たしていきたいと思えます。

結びとして、私たちの日本には、「〇〇道」というものが多々あります。剣道、柔道、弓道、茶道、華道などがあります。さすがに、欧米発祥のサッカーを蹴球道、ラグビーを闘球道とは言わないようです。

日本で生まれたものには、「道」の一文字がつくということは、この「道」という言葉に宿るもの、託したものがあるのだと思えます。

それぞれは「どこへ行く道なのか」というと、茶道は、お茶というものを媒体にして、弓道は、弓という道具を介して、それぞれ人生とか自然の悟りを得るために進む道、もしくは、その努力の過程そのものを「道」と言うそうです。そして、その過程には、見えないけれど「謙虚」「感謝」「礼儀」「信頼」など、主体性をはぐくむために大切なものがあるそうです。

私たちは、「労働運動」という「道」を力強く進みたいと思えます。私たちは、これまでも、お金やGDPでは測れない価値を重視し、人と人のつながり、人と人との絆が大切にされ、貧困や社会的排除を許さない社会を展望してきました。

これからも、一人一人の組合員の声に耳を傾け、街角にこぼれるつぶやきに耳を傾け、「声なき声」の代弁者としての役割を果たしていきます。

そして、「社会の不条理を進める勢力」に対して、連合大分5万組合員は、不条理・不合理との闘いを進めるバネに変えて対峙し、力強いスクラムを組んで、「助け合い・支え合い・お互い様」という価値を背負って、「働くことを軸とする安心社会」の実現に向けて、正々堂々と進んでいきたいと思えます。

本年が、構成組織、地域協議会、連合大分議員懇談会、分退連、そして、連合運動に関わるすべての皆さんにとって、飛躍の年となりますように、祈念申し上げ、連合大分からの新春のご挨拶といたします。

ともに頑張りましょう！